

## 『JVA 2014 年年間統計調査結果』について

当協会は、3月13日(金)午後2時から、協会会議室において『JVA 2014 年年間統計調査結果』についての記者発表会を開催しました。

以下に記者発表された報告の中から抜粋して2014年の統計調査結果についてご報告いたします。

なお、本調査の結果は『日本映像ソフト協会統計調査報告書 Vol.79』として冊子にまとめられ、一般の方にも有料にて頒布しております。

本件のお問い合わせにつきましては、広報課上田(03-3542-4433)まで、または、協会ホームページの「お問い合わせ」にアクセスしてください。

以 上

## 2014年(1月～12月)の実績について

1. 2014年のビデオソフトの総売上は2299億2300万円で前年比91.3%となった。7月～12月の下半期の前年同期比が95.3%であったのに対し、1月～6月の上半期が同87.0%であり、上半期の低迷が大きく響いた模様。

ビデオソフトの総売上金額をメディア別に見てみると、ブルーレイが921億4400万円で前年比103.8%と伸長が続いているが、DVDビデオが1377億7900万円で前年比84.5%と大きく割り込んだ。DVDビデオとブルーレイの売上金額における構成比は59.9 : 40.1となり、ブルーレイの売上が4割を超えることとなった。

2. ビデオソフト全体の売上金額を流通チャネル別に見てみると、「販売用」が1675億1600万円で前年比91.2%、「レンタル店用」は615億600万円で同91.7%となり、両方の市場とも約1割程度の減少となった。「販売用」「レンタル店用」「業務用」のそれぞれの割合は、72.9 : 26.7 : 0.4となり、ほぼ前年と同じ割合だった。

3. ビデオソフト全体(DVD ビデオとブルーレイの合計)の「販売用」の売上金額における DVD ビデオとブルーレイの割合は 47.9 : 52.1 となり、はじめてブルーレイの割合が過半となった。

ビデオソフト全体の「販売用」の売上金額をジャンル別に見てみると、『日本のアニメーション (一般向け)』が 31.5%を占めて構成比 1 位となったが、前年比は 86.4%と減少した。また構成比 2 位の『音楽 (邦楽)』で 25.4%を占めたが同 87.2%、構成比 10.2%で 3 位となった『洋画 (TV ドラマを除く)』も同 83.9%、にとどまった。本年のビッグタイトルとなった『アナと雪の女王』のリリースのあった『海外のアニメーション (一般向け)』が構成比 6.4%を占め 4 位となり、前年比が 374.8%と大きく伸長したが、「販売用」全体を押し上げるには至らなかった。

4. ビデオソフト全体(DVD ビデオとブルーレイの合計)の「レンタル店用」の売上金額における DVD ビデオとブルーレイの割合は 92.3 : 7.7 となり、圧倒的に DVD ビデオが占めている。

ビデオソフト全体の「レンタル店用」の売上金額をジャンル別に見てみると、『洋画 (TV ドラマを除く)』が 21.0%を占めて構成比 1 位となったが、前年比は 86.1%と減少した。また構成比 2 位の『日本のアニメーション (一般向け)』も 18.4%を占めたが同 85.8%と割り込んだ。構成比 16.6%で 3 位となった『邦画 (TV ドラマを除く)』はほぼ唯一、前年比 105.8%と前年を上回った。しかし、それに続く『海外の TV ドラマ』『アジアの TV ドラマ』はそれぞれ 94.7%、97.7%と割り込むこととなった。

5. ブルーレイ全体の売上金額における「販売用」「レンタル店用」「業務用」の割合は、94.8 : 5.2 : 0.1 で、相変わらず「販売用」の売上が圧倒的に高くなっている。売上金額の前年比では「販売用」が 103.6%、「レンタル店用」が 107.9%と伸長が続いている。

6. DVD ビデオ全体の売上金額における「販売用」「レンタル店用」「業務用」の割合は、58.2 : 41.2 : 0.6 で、売上金額の前年比では「販売用」が 80.7%、「レンタル店用」が 90.5%となり、「販売用」の落ち込みが目立った。

以 上